

## 第3回国連地名専門家グループ会合報告 Report on the 3<sup>rd</sup> United Nations Group of Experts on Geographical Names

基本図情報部 早坂寿人  
National Mapping Department HAYASAKA Hisato  
地理地殻活動研究センター 笹川啓  
Geography and Crustal Dynamics Research Center SASAGAWA Akira

### 要 旨

2023年5月1日から5日にかけて、ニューヨークの国連本部で第3回国連地名専門家グループ(UNGE GN)の会合が開催された。会合には、国家地名機関、地理空間情報当局、地名学者、外交官などからなる各国の代表者が参加し、地名に係る活動報告を基に議論が行われ、最終日には決議の採択が行われた。国土地理院から本会合に参加したので、その概要を報告する。

### 1. 第3回 UNGE GN の開催概要

第3回 UNGE GN の会合が、2023年5月1日から5日にかけて開催された。2年前の第2回 UNGE GN 会合では、新型コロナウイルス感染拡大の影響でオンライン方式による開催となったが、今回は対面方式で開催された。

本会合には、60を超える国・地域(外交当局、国家地名機関及び地理空間情報当局並びに大学等学識経験者)やオブザーバー等、約230名の出席があった。国土地理院から笹川啓地理情報解析研究室長、早坂寿人基本図課課長補佐、外務省から中川周国連代表部公使、椎名彩子同書記官、荒川健一専門機関室課長補佐、地名専門家として田邊裕東京大学名誉教授、渡辺浩平帝京大学教授、高木彰彦九州大学名誉教授が出席した。

本会合では5日間の会期中に、全22の議題に対して議論が行われ、最後に決議事項の採択とUNGE GN における次期議長・副議長等が選出された。

### 2. 日本に関連するレポートと発表

本会合では、各国、地域・言語部会、WG等からおおよそ140本のレポートが提出され、これらは全てUNGE GN のウェブサイト(参考文献を参照)で閲覧できる。提出された各レポートについて、インフォメーションとして提出されたものを除き、口頭発表が行われ、それに対して質疑応答が行われた。以下、日本に関連する発表概要を報告する。

#### 2.1 国土地理院によるレポートと発表

本会合に対して、国土地理院から以下の3つのレポートを提出した。なお、()内はレポートに対応する議題名である。

- ① 日本における地名標準化(議題4a:加盟国の政府の状況と地名標準化における進捗)
- ② 地名標準化国際シンポジウムについて(議題4d:国及び国際的な会合と会議)
- ③ 多言語表記の地図の継続更新について(議題14:地名データ管理)

これらのレポートについて各々の議題のセッションにおいて発表を行い、質疑等への対応を行った。また、①においては、今次会合からの新たな試みとして、各国からのナショナルレポートをテーマ毎に演台で発表した後に、複数発表でまとめて質疑を行う取組が取られた。

なお、上記の発表を含め、UNGE GN の会議映像については、国連公式のUN Web TVで視聴可能である。



写真-1 UNGE GN 会合の様子



写真-2 笹川室長による発表の様子

## 2.2 エクソニム WG (渡辺教授が座長)

エクソニム WG の座長である渡辺教授から、これまでのエクソニム WG の取組等の報告があった。

なお、会期中にサイドイベントとして WG が開催され、過去のエクソニム削減等の決議の見直しに関して決議の軌道修正を模索した。

しかし、会期中に参加者のコンセンサスが得られなかったため、引き続き議論や調整を続ける方向性が決議に盛り込まれた。

### 【参考】エンドニムとエクソニムについて

エンドニム (Endonym) は内生地名、エクソニム (Exonym) は外来地名と呼ばれる。1972 年の第 2 回国連地名標準化会議(UNCSGN)において、可能な限りエクソニムを減らしエンドニムを使用することが決議されたが、それに伴う問題も明らかになった。例えば、オーストリアの首都 (ウィーン) の表記について、Wien (独語) がエンドニムで Vienna (英語) はエクソニムとなるが、Vienna の名称は国際的にも広く使用されており、エクソニムを一律使用しないこととすると支障がある場合もあることから、本 WG で議論している。

## 2.3 日本海呼称

韓国が提出したレポート“International Seminar on Sea Names, 2021~2022”においては、日本海は国際的に確立した唯一の呼称であるが、その事実と異なる記述が見られたため、これが正されるよう日本から事前に国連事務局及び韓国政府に対し申し入れ、また、所定の方式にのっとり本会合に書面で日本の立場を表明した。

## 3. 東アジア部会の非公式会合

UNGEGN の前身会議 (詳細については、参考文献を参照) から引き続きではあるが、2004 年を最後に日本・韓国・北朝鮮が所属する東アジア部会会合は開催されていない状況である。2019 年以降は、田邊東京大学名誉教授が部会長代理を務めてきたが、高木九州大学名誉教授を後任とするため、日本及び韓国の地名専門家 (学識経験者) 及び地理空間情報当局職員で非公式会合を行い、交代への賛同を得た。

また、会合の中で田邊東京大学名誉教授から、漢字を用いる地域での部会設立への関心が提起され、韓国側の好反応を得た。議題 16 の場でも田邊名誉教授がその構想の提言を行い、議場から韓国や中国から賛意が示され、本件は留意事項として決議 20 にも記載された。

## 4. 経済社会理事会への勧告と UNGEGN の決議

主要な経済社会理事会への勧告と UNGEGN の決

議については、以下のとおり。

### 【経済社会理事会に採択を求める勧告】

1. UNGEGN の SDGs への貢献の賞賛と UN Maps との協力について支持の決定
2. 世界地名データベースにデータを追加するため、地名データ管理 WG、文化遺産としての地名及びローマ字表記システムに関する WG を設置することを決定 (①地名データセットの統合をサポートするためのリソースの動員、②世界地名データベースのための Web 技術のレポート、③本件に係る国連の統計部と地理空間情報課との協力も要求)
3. 次回 UNGEGN の 2025 年の開催時期と場所 (4 月 28 日~5 月 2 日、国連本部) の決定と、暫定議題の承認

### 【UNGEGN の決議】

1. (議長報告) 戦略計画を進めるため、優れた実践例の採用を奨励。
2. (事務局報告) 国家地名機関の強化や創設、専門家グループ信託基金への支援のための適切な枠組みの構築を要求。
3. (ナショナルレポート) 国家の地名標準化において共通に関心のあるトピックを共有するガイドとしてナショナルレポートの参照を奨励。
4. (アフリカの地名標準化活動) 多くのアフリカ諸国が依然として地名の管理構造の確立を要する点に留意。
5. (戦略計画) 戦略計画のアクションアイテムの修正案の採択を支持。
6. (各部門からの報告) 活動していない部門の活性化のため各国の参加や、戦略計画の実施への積極的貢献の奨励。
7. (国内・国際的な会議) 2 件の報告に注目し、その取組を認知。
8. (他の国際機関との協力) 他の組織との連携に関する報告を歓迎するとともに、国連の地理空間情報関連や UN マップとの更なる協力を支持。
9. (地球規模の地理空間情報管理に関する国連専門家委員会(UN-GGIM)との連携) インドネシアによる国家地図作成機関や地理空間情報当局、国家地名機関との間で共有される地名標準化に関する優れた実践集の作成支援の申し出を歓迎。
10. (地名の国内・国際標準化) 地理的背景に関連した命名原則と手順の開発を継続し、専門家グループに報告するよう奨励。
11. (決議の実施のために講じられ、提案された措置) 国家地名機関が発行している地名変更へのアプローチを含むガイドラインの収集を支持。

12. (広報・資金提供) 発展途上国の参加を支援し、地名訓練イベントを実施するために使用される専門家グループ信託基金の創設をさらに検討するよう奨励。
13. (地名教育) 先住民遺産の地名を空間データセットとして利用できるようにすることで、それらの地名を復元、権限付与、促進、保存する取組を支援。
14. (地名用語) 加盟国に対し、地名用語データベースへの追加、修正、修正の提案を継続的に行うよう要請。
15. (文化遺産) 文化遺産問題の重要性について専門家グループによる注目が高まっていることに留意し、国家的経験と関与の共有の継続を支持。地名における文化遺産の感情的及び精神的側面に対する専門家グループ全体の認識が高まることによって、つながり、アイデンティティ、帰属意識が向上し、先住民の地名の公平な認識に貢献することを認識。
16. (エクソニム) 2025年の会合での検討のために、エクソニムの国連地名標準化会議の決議と文化遺産の一部としてエクソニムの認識を調和させる勧告を出す必要があると決定。
17. (世界地名データベース) 事務局の報告を歓迎し、意識を高め、地図や文書における国家標準化された名前の使用を促進する地名データの世界的リポジトリとしての世界地名データベースの再開発を賞賛。
18. (地名データ管理) 地名標準化へのアプローチにおいてリンクされたデータの考慮を推奨。
19. (文字体系と発音) 既存の国連ローマ字表記システムの更なる実施と新たな国家システムの採用に向けて、WGへ継続的共有を奨励。
20. (その他の地名の議題) 現在の東アジア部会(中国を除く)の議長代理が辞任し、アジアにおける言語ベースの部会(漢字の共通表記システム)の設立に対する彼の関心は後任者に引き継がれることに留意。
21. (広報・資金 WG の今後) 広報は、評価・実

施・広報コーディネーターへ、資金は、地名訓練コースのWGに移管の上、既存のWGの解散を支持。

22. (今回のテーマ) 専門家グループと、国家地名機関、国連機関、科学、技術、学術団体、民間の地図作成者や地図利用者を含む地名に関連する他の主体との間の関係、つながりを強化することが重要であることを認識。

## 5. 議長等の選出及び日程

UNGEGN 幹部の選出が行われ、以下メンバーが選出された。

議長 : Mr. Pierre Jaillard (再任：フランス)

副議長 : Ms. Susan Birtles (再任：オーストラリア)

副議長 : Mr. Sungjae Choo (再任：韓国)

報告者 : Ms. Wendy Shaw (再任：ニュージーランド)

報告者 : Ms. Ana Cristina (新任：ブラジル)

## 6. 所感

本会合では、新たな試みである各国のナショナルレポート発表における多くの質問応答や、エクソニムWGでの過去のエクソニム関連の決議を巡る議論等が活発に行われた。特に、我が国から学術関係者として継続して参加されている渡辺教授は、運営への貢献が顕著であった。

その他、各国が自国の地名集や地名情報についてウェブベースで利用しやすい形での検討・提供を進めており、実際の Web ベースでの事例紹介や、linked open data を含めた発表などがみられた。

我が国政府の地理空間情報当局である国土地理院としては引き続き、地名に関する国際動向を把握するとともに、地名データに関連した取組などの知見の報告を行い UNGEGN の議論へ貢献すること、及び、外務省及び学術関係者と連携した対処を継続することが重要と考えている。

(公開日：令和5年10月18日)

## 参考文献

- 石山信郎, 岸本紀子, 下山泰志, 河瀬和重, 笹川啓 (2021) : 第2回国連地名専門家グループ会合報告, 国土地理院時報, 134, 63-67.
- 笹川啓, 明野和彦, 須賀正樹 (2019) : 第1回国連地名専門家グループ会合報告, 国土地理院時報, 132, 149-152.
- United Nations Group of Experts on Geographical Names (2023) : <https://unstats.un.org/unsd/ungegn/> (accessed 30 June 2023).